

2025年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2024年12月13日

東

上場会社名 株式会社アピリッツ

上場取引所

コード番号 4174

URL <https://appirits.com/>

代表者(役職名) 代表取締役社長執行役員CEO

(氏名) 和田 順児

問合せ先責任者(役職名) 取締役執行役員CFO

(氏名) 永山 亨

(TEL) 03-6684-5111

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2025年1月期第3四半期の連結業績(2024年2月1日~2024年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年1月期第3四半期	6,454	2.2	23	△94.7	19	△95.6	△57	—
2024年1月期第3四半期	6,317	20.0	449	48.9	447	55.7	271	58.9

(注) 包括利益 2025年1月期第3四半期 △57百万円(—%) 2024年1月期第3四半期 271百万円(58.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年1月期第3四半期	△13.81	—
2024年1月期第3四半期	66.38	63.15

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2025年1月期第3四半期	5,507	2,357	41.8
2024年1月期	4,585	2,468	53.2

(参考) 自己資本 2025年1月期第3四半期 2,302百万円 2024年1月期 2,441百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年1月期	—	6.00	—	6.00	12.00
2025年1月期	—	8.00	—	—	—
2025年1月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年1月期の連結業績予想(2024年2月1日~2025年1月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	9,000	6.8	301	△49.7	295	△50.4	159	△58.7	38.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 2 社 (社名) Bee2B株式会社、株式会社クエイル、除外 1 社 (社名) —
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年1月期3Q	4,128,762株	2024年1月期	4,226,700株
② 期末自己株式数	2025年1月期3Q	32,400株	2024年1月期	100,038株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年1月期3Q	4,126,946株	2024年1月期3Q	4,095,506株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 有 (任意)

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、決算に関する説明 (動画) 及び説明資料について、速やかに当社ホームページに掲載する予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	12
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	12
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあり、緩やかな回復傾向にあります。しかしながら、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場停滞の継続、さらには物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動などにより、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループが属するインターネット業界・オンラインゲーム業界においては、需要の面では、大手企業を中心に「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」と呼ばれるデジタル技術の活用による変革の流れが引き続き力強いものとなっており、企業や政府・自治体における旺盛なIT投資が継続しております。また、供給の面では、デジタル人材の不足が依然として深刻な状況にあり、需給ギャップの拡大とそれに伴う人材獲得競争の激化が見られ、ソフトウェア等の開発単価は上昇傾向にあります。

このような経営環境において、当社グループは「ザ・インターネットカンパニー」というビジョンのもと、「セカイに愛されるインターネットサービスをつくり続ける」をミッションに掲げ、その実現に向けてWebソリューション事業・デジタル人材育成派遣事業・オンラインゲーム事業を展開し、DX化に伴う需要拡大や開発単価の上昇等の追い風の下、収益拡大を図っております。

また、前連結会計年度末に掲げた中期ビジョンである「アピリッツVISION2030」の取り組みを推進しております。当社グループには若手エンジニアを始めデジタル人材が多数在籍しており、今後も採用を強化する方針であることから、長期的な人材への投資・教育が必要であると考えております。従業員1人1人の成長が事業成長及び社会貢献へ繋がる事を鑑み、人と事業が継続して成長できる環境作りを行うことを目的としております。具体的には、組織における横串のコミュニティを活性化し、相互理解や助け合い文化の促進を行う「共創・共学」、学びの継続ができる環境構築によりデジタル人材の育成を行う「人材育成」、学びを継続することによる「生産力向上」の3つの要素により実現できるものと考えており、最終的には多くのサービス開発を通して、事業・収益拡大を実現させ、社会に多数のデジタル人材を輩出することで「豊かな社会」の実現を目指してまいります。

さらに、当社グループが成長戦略として掲げるM&A戦略の面では、その実現によりデジタル人材の確保・育成と事業領域の拡大に取り組んでおります。引き続き、成長に向けて積極的なソーシングを行ってまいります。なお、過年度から当第3四半期連結累計期間末までに実現したM&Aは以下のとおりであり、いずれも完全子会社化しております。

時期	名称	事業内容
2022年1月	株式会社ムービングクルー	ファンコミュニティサイトの企画・開発・運営等
2022年7月	株式会社Y's	IT人材派遣、Webサイト制作等
2024年6月	Bee2B株式会社	Webサービス、システム開発・構築、運用・保守、コンサルティング等
2024年10月	株式会社クエイル	スマホアプリ・Webアプリケーション開発、AWSを主軸としたインフラ・クラウドサービスの構築・移行・運用、Webサイト制作等

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、以下のとおりとなりました。

売上高 6,454,767千円 (前年同期比2.2%増)

営業利益 23,768千円 (前年同期比94.7%減)

経常利益 19,711千円 (前年同期比95.6%減)

親会社株主に帰属する四半期純損失 57,010千円 (前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益271,855千円)

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、セグメント間取引消去前の金額を記載しております。

① Webソリューション事業

Webソリューション事業においては、顧客のニーズに合わせたサービス設計から開発・保守までの一連の業務を請け負うことによるロイヤリティループの形成、若手に責任あるポジションを経験させ開発エンジニアとしての技能の向上を図りそれをまた新たな若手に繋げていくことによる成長スパイラルの形成から、継続的な案件受注や新規案件のタッチポイントの増加を企図しております。

第1四半期連結累計期間から継続して発生していた大型案件の納期遅延は9月に収束しました。10月以降は業績の回復に向けてシフトしておりますが、当該案件収束までに生じた大幅な人員投下やリソース不足の発生による新規案件獲得の低下の影響が一部継続しており、業績の回復は緩やかなものとなりました。なお、グループ会社における業績は順調に推移しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,498,478千円（前年同期比6.1%減）、セグメント利益は221,881千円（前年同期比72.6%減）となりました。

② デジタル人材育成派遣事業

デジタル人材育成派遣事業においては、急速に進むデジタルビジネスの進展とそれを支えるデジタル人材の需給ギャップが構造的に問題となっており、質の高いデジタル人材に対するニーズが依然として高まっております。

当社グループでは、未経験に近い人員の採用を行い、過去から積み上げた質の高い教育を積極的に行うことで、質の高いデジタル人材を顧客に提供しております。

当第3四半期連結累計期間においてもデジタル人材の派遣の需要は引き続き堅調に推移しております。一方で、12月から開始するオンラインゲーム事業における大型共同運営タイトルへの人員異動もあり、直前四半期比では当社単体の売上高は微減となりました。なお、グループ会社における業績は順調に推移しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,627,895千円（前年同期比14.4%増）、セグメント利益は133,728千円（前年同期比70.3%増）となりました。

③ オンラインゲーム事業

オンラインゲーム事業は、運営移管タイトルにおいては、『けものフレンズ3』及び『UNI'S ON AIR（ユニゾンエア）』がいずれも9月にサービス開始5周年を迎えたことを記念して周年イベントを開催し売上に貢献いたしました。また、運営移管後に運営体制の効率化や外注の内製化を継続して行っていることで、原価は低減傾向にあります。これらの運営移管タイトルの貢献により、四半期におけるセグメント利益は過去最高となりました。

受託開発・運営においては、他社開発ゲームの受託開発及び運営保守並びに共同運営を行ってまいりました。自社ゲームタイトルや運営移管タイトルの開発で獲得したノウハウを活かし、他社ゲーム開発の受注が安定的に推移しました。また、4月には株式会社ブシロードが提供する『新テニスの王子様 RisingBeat』の運営に参画するなどを行いました。

自社ゲームタイトルにおいては、『ゴエティアクロス』が9月にサービス開始6周年を迎えたことを記念して周年イベントを開催しました。また、「式姫Project」の新作ゲームタイトルについては、7月にリリース時期の延期を決定しましたが、ゲーム体験及び品質のさらなる向上を目指し、鋭意開発しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,384,969千円（前年同期比5.1%増）、セグメント利益は232,692千円（前年同期比245.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、5,507,856千円と前連結会計年度末に比べて922,015千円の増加となりました。流動資産は662,717千円増加し、4,044,426千円となりました。これは主に、現金及び預金が226,788千円、売掛金及び契約資産が109,098千円、その他が297,150千円それぞれ増加したこと等によるものであります。固定資産は259,298千円増加し、1,463,430千円となりました。これは主に、有形固定資産が129,211千円、のれんが95,338千円それぞれ増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、3,150,019千円と前連結会計年度末に比べて1,032,551千円の増加となりました。流動負債は195,148千円増加し、1,925,116千円となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が263,540千円増加した一方で、未払法人税等が76,033千円減少したこと等によるものであります。固定負債は837,402千円増加し、1,224,902千円となりました。これは主に、長期借入金が835,680千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、2,357,837千円と前連結会計年度末に比べて110,536千円の減少となりました。これは主に、配当金の支払により利益剰余金が57,790千円、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が57,010千円それぞれ減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、2024年9月9日の「2025年1月期 第2四半期（中間期）及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,742,161	1,968,949
売掛金及び契約資産	1,331,392	1,440,491
仕掛品	9,876	41,690
その他	298,279	595,429
貸倒引当金	—	△2,134
流動資産合計	3,381,709	4,044,426
固定資産		
有形固定資産	93,365	222,577
無形固定資産		
のれん	221,129	316,468
その他	1,149	944
無形固定資産合計	222,279	317,412
投資その他の資産		
差入保証金	671,978	685,978
その他	216,508	237,461
投資その他の資産合計	888,487	923,440
固定資産合計	1,204,132	1,463,430
資産合計	4,585,841	5,507,856

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	279,223	282,726
短期借入金	300,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	110,000	373,540
未払金	515,470	615,165
未払法人税等	109,131	33,097
賞与引当金	29,020	19,677
受注損失引当金	—	84
その他	387,121	300,825
流動負債合計	1,729,967	1,925,116
固定負債		
長期借入金	387,500	1,223,180
その他	—	1,722
固定負債合計	387,500	1,224,902
負債合計	2,117,467	3,150,019
純資産の部		
株主資本		
資本金	638,657	639,112
資本剰余金	536,827	537,282
利益剰余金	1,376,622	1,151,426
自己株式	△110,395	△25,455
株主資本合計	2,441,710	2,302,366
新株予約権	26,663	55,471
純資産合計	2,468,374	2,357,837
負債純資産合計	4,585,841	5,507,856

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年10月31日)
売上高	6,317,326	6,454,767
売上原価	4,802,034	5,180,156
売上総利益	1,515,292	1,274,611
販売費及び一般管理費	1,066,213	1,250,842
営業利益	449,079	23,768
営業外収益		
受取手数料	622	142
物品売却益	660	1,880
その他	1,157	1,261
営業外収益合計	2,439	3,284
営業外費用		
支払利息	3,443	7,030
その他	952	312
営業外費用合計	4,396	7,342
経常利益	447,122	19,711
特別損失		
固定資産除却損	—	361
本社移転費用	—	43,544
特別損失合計	—	43,906
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期純損失(△)	447,122	△24,194
法人税等	175,267	32,815
四半期純利益又は四半期純損失(△)	271,855	△57,010
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	271,855	△57,010

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年10月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	271,855	△57,010
四半期包括利益	271,855	△57,010
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	271,855	△57,010
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2023年2月1日 至 2023年10月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	Webソリューション事業	デジタル人材 育成派遣事業	オンライン ゲーム事業	計		
売上高						
請負契約に係る取引	1,132,861	—	649,938	1,782,799	—	1,782,799
準委任契約に係る取引	1,527,840	—	138,428	1,666,268	—	1,666,268
人材派遣に係る取引	—	1,387,850	—	1,387,850	—	1,387,850
オンラインゲーム配信 サービスに係る取引	—	—	1,480,407	1,480,407	—	1,480,407
顧客との契約から生じ る収益	2,660,701	1,387,850	2,268,774	6,317,326	—	6,317,326
外部顧客への売上高	2,660,701	1,387,850	2,268,774	6,317,326	—	6,317,326
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	35,183	—	35,183	△35,183	—
計	2,660,701	1,423,033	2,268,774	6,352,509	△35,183	6,317,326
セグメント利益	810,240	78,534	67,403	956,178	△507,099	449,079

(注) 1. セグメント利益の調整額△507,099千円には、セグメント間取引消去△35,183千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△471,916千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2024年2月1日 至 2024年10月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	Webソリューション事業	デジタル人材 育成派遣事業	オンライン ゲーム事業	計		
売上高						
請負契約に係る取引	779,732	—	594,935	1,374,668	—	1,374,668
準委任契約に係る取引	1,717,827	—	267,247	1,985,075	—	1,985,075
人材派遣に係る取引	—	1,572,288	—	1,572,288	—	1,572,288
オンラインゲーム配信 サービスに係る取引	—	—	1,522,736	1,522,736	—	1,522,736
顧客との契約から生じ る収益	2,497,560	1,572,288	2,384,919	6,454,767	—	6,454,767
外部顧客への売上高	2,497,560	1,572,288	2,384,919	6,454,767	—	6,454,767
セグメント間の内部売 上高又は振替高	918	55,607	50	56,575	△56,575	—
計	2,498,478	1,627,895	2,384,969	6,511,343	△56,575	6,454,767
セグメント利益	221,881	133,728	232,692	588,302	△564,534	23,768

(注) 1. セグメント利益の調整額△564,534千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「Webソリューション事業」セグメントにおいて、中間連結会計期間にBee2B株式会社を完全子会社としたこと及び当第3四半期連結会計期間に株式会社クエイルを完全子会社としたことにより、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、146,083千円であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の消却)

当社は、2024年5月17日開催の取締役会決議に基づき、2024年5月31日付で100,038株の自己株式の消却を実施しております。これにより、当第3四半期連結累計期間において、その他資本剰余金及び自己株式がそれぞれ110,395千円減少しました。なお、自己株式の消却により、その他資本剰余金の残高が負の値となったため、その他資本剰余金を零とし、当該負の値をその他利益剰余金から減額しております。

(自己株式の取得)

当社は、2024年10月17日開催の取締役会決議に基づき、当社普通株式150,000株、取得価額の総額180,000千円を上限とした自己株式の取得を決議し、当第3四半期連結累計期間に当社普通株式32,400株を25,455千円で取得しました。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が537,282千円、利益剰余金が1,151,426千円、自己株式が25,455千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年10月31日)
減価償却費	70,020千円	49,976千円
のれんの償却額	50,744 "	60,172 "

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

中間連結会計期間において、Bee2B株式会社の全株式を取得して子会社化したため、連結の範囲に含めておりません。

当第3四半期連結会計期間において、株式会社クエイルの全株式を取得して子会社化したため、連結の範囲に含めております。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2024年12月13日

株式会社アピリッツ
取締役会 御中

ESネクスト有限責任監査法人

東京都千代田区

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田代 学指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 志村 翔子

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社アピリッツの2024年2月1日から2025年1月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2024年8月1日から2024年10月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2024年2月1日から2024年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上